

2023年5月12日

各位

会社名 株式会社三洋堂ホールディングス
代表者名 代表取締役最高経営責任者兼 加藤 和裕
最高執行役員
(東証スタンダードコード番号: 3058)
問合せ先 取締役執行役員 伊藤 勇
経営企画室長
(TEL: 052-871-3434)

特別損失（減損損失）の発生及び連結業績予想と実績値との差異 並びに個別業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

この度、2023年3月期に下記の通り特別損失が発生することとなりましたので、お知らせいたします。また、2022年11月14日に公表した連結業績予想と本日公表の実績値に、下記の通り差異が生じたのでお知らせいたします。さらに、2023年3月期の個別業績につきまして、前期実績値との間に差異が生じたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の発生及びその内容

2023年3月期決算において、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、収益性の低下が見込まれる店舗の建物等の固定資産についての減損損失を、連結決算では2億65百万円を特別損失に計上し、個別決算においては2億34百万円を特別損失に計上いたします。

2. 2023年3月期 連結業績予想数値と実績値との差異(2022年4月1日～2023年3月31日) (単位: 百万円、百万円未満切捨て)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	17,600	△240	△210	△540	△74.14
今回修正予想 (B)	17,798	△259	△217	△496	△68.21
増減額 (B-A)	198	△19	△7	43	—
増減率 (%)	1.1	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (2022年3月期)	18,853	5	39	△275	△37.80

(差異の理由)

売上高は、中古トレカの導入を進めているTVゲーム部門が予想を上回ったため、全体では前回予想を1億98百万円上回る177億98百万円となりました。また、上記「1. 特別損失の発生及びその内容」に記載の特別損失が見積りより減少したことから、親会社株主に帰属する当期純利益は前回の予想を上回る4億96百万円の損失となりました。

3. 2023年3月期個別業績の前期実績値との差異(2022年4月1日～2023年3月31日)

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期(2022年3月期) 実績(A)	百万円 2,167	百万円 64	百万円 70	百万円 △169	円 銭 △23.31
当期(2023年3月期) 実績(B)	百万円 2,083	百万円 20	百万円 △111	百万円 △361	円 銭 △49.58
増減額 (B-A)	△83	△43	△182	△191	—
増減率 (%)	△3.9	△67.8	—	—	—

(差異の理由)

上記の個別業績の前期実績値との変動は、子会社である株式会社三洋堂書店の売上減少によって経営指導料収入が減少したことや、子会社に対する貸付金について関係会社貸倒引当金繰入額を営業外費用として1億43百万円計上したことに加え、「1.特別損失の発生及びその内容」に記載の減損損失の計上に起因するものであります。

以上